

戦争遺跡の保存 今後の取り組みを提起

私たち「市民の会」が鈴鹿市の戦争遺跡の保存に取り組んで足かけ5年になります。結果的に取り壊されたものの、旧海軍の巨大格納庫の保存運動を通して、①いまでも残る戦争遺跡は鈴鹿市の誕生を語る「証人」であり、市の原点であること、②戦争体験者が減っていくなか、戦争遺跡はモノによって戦争の記憶を後世に伝える役割を持つこと、などを市民とともに学ぶことができました。この夏、鈴鹿市文化会館で開いた「第16回戦争遺跡保存全国シンポジウム」も成功裡に終えることができました。戦争遺跡の保存と活用をどう形あるものにしていくか。今後の課題をまとめてみました。会員のみなさまと一緒に、実現に向け取り組んでいきたいと思えます。

○平和資料室(館)の設立

格納庫を解体したとき、部材約30点をN T Tから譲り受け、現在、その大半を市の文化財倉庫に保管してもらっています。これを展示物の一つとして活かしながら、鈴鹿市の誕生を語るに不可欠な戦争遺跡や歴史を、写真、パネルなどで見ることができる「平和資料室(館)」の設立をめざします。平和教育の拠点となる施設として、各家庭に残る戦争遺品の収集・展示、全国各地の戦争遺跡に関する資料・書籍、ビデオ、写真の展示など多様な活用が考えられます。

○モニュメントの建立と「鈴鹿平和基金」の創設

格納庫を含む旧海軍の航空基地だったN T T研修センタ跡地には正門と番兵塔、碧空の碑が残されています。それらは10メートルほど北側の市の防災公園内に移転されます。そして、その隣に旧海軍施設がここにあったという説明版、さらにはそれを象徴するモニュメントの用地を市が確保してくれています。

私たちはこのモニュメントを市内在住の彫刻家に依頼しており、その制作費のため、「鈴鹿平和基金」の名で、軍事施設跡に進出、立地した企業をはじめ、各界の団体、個人など幅広い市民の募金を求めています。

○戦争遺跡の文化財指定および案内板等の設置、マップの作成

鈴鹿市三畑町の掩体はすでに国の登録文化財となっています。このほか、市内には、住吉町のリサイクルセンター内にある機銃試射の着弾場、鈴鹿海軍工廠の正門、平野町の弾薬工場跡などまだ多くの戦争遺跡があります。これらの調査とともに、積極的な文化財指定により保存・伝承していくことが大切です。併せて、これらの戦争遺跡はあまり市民に知られておらず、そこへ行く道順もよく分かりません。所有者の許可を得て説明版や案内板を設置できればと思えます。

さらに、戦争遺跡マップを作成し、企業めぐり観光、史跡めぐり観光などとタイアップできるようにしたいと考えています。

○家庭などの遺された戦時遺品の収集・保管

市制70周年事業として市が実施している戦争体験者の聞き取り調査や戦争遺跡保存のシンポジウムなどをきっかけに、各家庭に眠る戦争関連遺品の寄贈の申し出が所有者らからあると聞いています。平和資料室の貴重な展示資料となる可能性があり、散逸させず、収集・保管していく必要があります。どんな形で受け皿をつくるか考える必要があります。

○「平和の祈り展」への提案

全国シンポジウムでは、戦争体験者からの聞き取りをシナリオにした鈴鹿麦わら帽子の会の朗読劇が注目を集めました。また、市内の数々の戦争遺跡の写真パネルも市民に見ていただきました。鈴鹿市にも悲惨な戦争の歴史があったということを知っていただくために、毎年8月に市が主催して開く「平和の祈り展」で、こうした地元鈴鹿の素材を活かしていかせたいと提案します。

戦争遺跡保存全国シンポジウム鈴鹿大会 ～460人が参加 成功裡に終わる～

第16回戦争遺跡保存全国シンポジウム三重県鈴鹿大会は8月18～20日の3日間、鈴鹿市で開かれました。参加者は460人と過去最高。知事があいさつしたのも初めてのことだったそうです。1日目は全体会、2日目は分科会をいずれも文化会館で。3日目は現地見学会でした。駅からの送迎、駐車場案内、昼食、受付、書籍の頒布など、支えた裏方は延べ144人にのぼりました。以下、写真で振り返ってみます。

三重県知事と鈴鹿市長があいさつ

鈴木英敬知事「私の誕生日は8月15日。たまたまこの日に生を受けたことで、戦争の悲惨さとそれを語り継ぐことの大切さを意識している。戦争遺跡は目で見える形で次世代に伝えていくことができるもの。できる限り、保存・活用のサポートをさせていただく」

末松則子鈴鹿市長「市制70周年事業として戦争の記憶、証言の聞き取り調査をしている。現代史を読み解く重大な文献資料として残していきたい」

矢野仁志鈴鹿市議会議長も歓迎のあいさつ。中川正春衆議院議員からの祝電が披露されました。

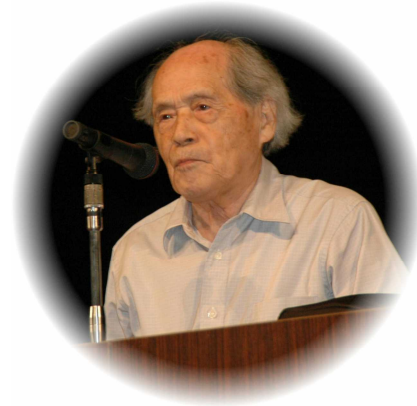


麦わら帽子の会が朗読劇

鈴鹿市内の主婦らでつくる鈴鹿麦わら帽子の会が「鈴鹿その時」と題して朗読劇をしました。体験を聞き取りして作ったシナリオ。銃後を守った婦人たちの切々とした思いが語られ、参加者に感動を与えました。

清水信さんが記念講演

鈴鹿市在住の文芸評論家、清水信さんが「戦争・その記憶と記録」という演題で記念講演しました。砲弾で下半身を失って死んでいく一等兵と2人だけ取り残された従軍記者のときの体験をつづった自作の詩も読み上げられました。



十菱代表が基調報告

戦争遺跡保存全国ネットワークの十菱駿武代表が「戦争遺跡保存の現状と課題2012」と題して基調報告しました。1995年の文化財指定基準の拡大以降、行政・学会・市民運動の高まりの成果で、指定・登録された戦争文化財は204件になっている、と話されました。

浅尾さんが鈴鹿の取り組みを報告

「市民の会」の世話人で、白鳥中学校教諭の浅尾悟さんが「格納庫保存問題と軍都鈴鹿」と題して地域報告。「残念ながら格納庫保存の声は届かなかったが、軍都の歴史を市民に多くの知ってもらえたことを今後に生かしていきたい」と話しました。



2コースに分かれて見学

現地見学会は鈴鹿から菰野にかけての北部コースと志摩半島の南部コースに分かれて実施しました。写真は国の登録文化財になっている鈴鹿市三畑町の掩体の見学の様子です。



会場には全国各地の戦争遺跡の写真パネルが
展示されました



手づくりのカレーで全国からの参加者をもてなしました

モニュメントの制作を三村力さんに依頼 ～「過去を思いつつ未来に踏み出す想いをこめて」と三村さん～

鈴鹿市白子町のNTT研修センター跡地は北側の市防災公園、中央の鈴鹿医療科学大学、南側の宅地与三分割され、3棟あった巨大格納庫は取り壊されました。旧海軍の航空基地があった痕跡は、正門と番兵塔、「碧空の碑」だけとなりました。「市民の会」はこの地に旧海軍の施設があったことを象徴するモニュメントを市と協力して防災公園内につくることにし、その制作を鈴鹿市在住の彫刻家で県立飯野高校の美術教師、三村力さん(58)に依頼しました。

三村さんは快く引き受けてくださり、制作にあたって次のようなコメントを寄せてくれました。



2005年、映画『埋もれ木』の撮影のお手伝いで旧電通学園に行き、セットの組んである薄暗く広大な鉄骨空間の中に初めて入りました。それが格納庫だと解った時、幼いころ鈴鹿には海軍の飛行場があったと母から聞かされた記憶がよみがえってきました。

残念ながら、あの静かで古びた空間を包んでいた建物はなくなりましたが、忘れてはならない過去の時間を思いつつ、未来に向かって一步踏み出していく想いをこめたモニュメントにしたいと思います。

三村さんは鈴鹿市生まれ。東京芸術大学大学院を修了したあと、三重県の教員となって教鞭をとるかたわら彫刻家として活躍されてきました。数々の個展、グループ展に出展。神戸公園の『移行83』、御座池公園の『水の記憶』、白子港公園の『刻の軌跡』、鈴鹿フラワーパークの『大地讃頌』は、いずれも三村さんが制作したモニュメントです。



鈴鹿市の戦争遺跡を保存・平和利用する市民の会

代表 加藤二三子、竹内宏行
〒510-0254 鈴鹿市寺家1-2-47
電話 059-388-6508
メール ta818hi@mecha.ne.jp

HP <http://www006.upp.so-net.ne.jp/asao/peacesuzuka.htm>